□□□□

□□□

□□□

あけぼのホームで活動する平塚医師（提供写真）

　そうした中、同ホームで入居者が感染したケースが５件あったという。最初は昨年５月ごろ、周辺地域のＳＵＳ（統一医療システム）病院でたまたま診察を受けた入居者の感染が判明。同時期にロータリークラブのキャンペーンで入居者と職員全員に行われたＰＣＲ検査により、３人の入居者の陽性反応が見つかり、すぐさま同施設内の特別部屋に隔離したが、当初は３人とも無症状だったという。さらに、翌６月ごろに５人目の入居者の感染が見つかり、隔離措置によって結局、５人全員が回復し、現在は問題なく日常生活を続けているそうだ。

◆大切なワクチン接種

　平塚医師はあけぼのホーム内での感染対策として「外部との接触を極力避けること」「職員およびスタッフのＮ９５マスクの使用」を挙げる。また、消毒液設置場所の増加のほか、消毒専用の特別スタッフを雇用して入居者が触れることが多い手すり、ドアノブや電気スイッチの箇所を払拭することを徹底している。

　特に、職員とスタッフについてはパンデミック当初、感染予防対策を毎週の講習で指導し、慣れるに従って１５日ごとの講習に切り替えてきたという。

　平塚医師は「一番大切なのはやはり、ワクチンの予防接種。入居者や職員にはちょっとした症状でもすぐにＰＣＲ検査を行い、陽性反応が出た時には隔離措置を行うことが必要」と強調した。

感染リスクが高まる「５つの場面」
場面① 飲酒を伴う懇親会等
● 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
● 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
● また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。
場面② 大人数や長時間におよぶ飲食
● 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事に比べて、感染リスクが高まる。
● 大人数、例えば５人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。
場面③ マスクなしでの会話
● マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
● マスクなしでの感染例としては、昼カラオケなどでの事例が確認されている。
● 車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。
場面④ 狭い空間での共同生活
● 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
● 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。
場面⑤ 居場所の切り替わり
● 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることがある。
● 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。

□□□